

入会 50 周年の記念の月に



この8月で私は創価学会に入会してちょうど50年になりました。それは半世紀前の8月、今年と同じように暑い東京の夏のことでした。その2年前、長野県の進学校を卒業した私は大学受験に失敗。直後に母が脳溢血で倒れ長期入院。そんな家庭事情から進学を断念、上京し大森の小さな自動車部品販売会社で働いていました。

ある日、会社の女性社員に創価学会の座談会に誘われたのです。出席してみると仏教哲学の一部が語られていました。話はやがて私を中心に展開していきました。私は率直に抱えている悩みや将来の希望を話しました。

- ◆ 母の病気をなんとか治してあげたいこと
- ◆ 母は長期入院だったけれど、病状は落ち着いてきていたので自分も再度大学進学を夢を抱いていること

続いて、聞かれるままに実家の宗教や、再受験といっても仕事をしながらの勉強になるのでとても信心などしている余裕はないこと、などを伝えました。

すると、中心者と思われる壮年が力を込めて言ったのです。

「お母さんの病気については日蓮大聖人の『四箇の格言』から説明しよう」「時間のないなかでの受験勉強をより効率的にするためにも信心をした方が得ですよ」

そして別のリーダーが、ある学生部員の体験（座っている畳に跡がつくほどの題目を唱え東大に合格した）を紹介してくれたのです。

当時、私は「赤旗」を購読するなどそれなりに社会について考えていました。周囲の言うことをすぐには納得できなかったのですが、「饅頭がうまいかまずいかは食べてみなければわからない」との勧めで、ともかくも“食べてみる”ことにしたのです。

と、「じゃあ お寺に行こう」と、お盆が終わったばかりの8月17日、先輩に連れられて品川にある日蓮正宗の寺院に行き御本尊を受持したのです。



以来ちょうど半世紀！入信当初は会社の仲間からひやかされ、友人から敬遠されるようなこともありました。一方、この間に宗祖の教えに違背した日蓮正宗は在家の信徒団体である我々を破門。その結果、同宗は衰亡の道をたどるなか、創価学会は192カ国地域でメンバーが活躍するまでに発展する歴史をかいま見てきました。

個人的には、7年前にうつになり深く深い谷間に落ち込み、一時は人生のどん底を経験しましたが、今は信仰の力ですべてを乗り越え変毒為薬、「世界文学紀行」を定年後のライフワークに作品の舞台を訪問できるようになったのです。

おりしも本年は自分にとっても「古希」という人生の節目。そこで入会50周年との符合を機に「ミニ自分史」に改めて手を加えました。苦境のときどう人生を開いてきたか、という自分の信仰体験を中心にまとめた内容ですがよかったらご覧になってみてください。皆さまの参考となる何かがあればこんな嬉しいことはありません。